

光り輝くイタリア・バロックの真髄

ヴィヴァルディ

「四季」と「スターバト・マーテル」

ファビオ・ビオンディ &
エウローパ・ガランテ



*Fabio
& Biondi
Europa
Galante*

ヴィヴァルディ・プログラム

「テルモドンテに向かうヘラクレス」より「シンフォニア」
Sinfonia from Ercole sul Termodonte
スターバト・マーテル
Stabat Mater
「忠実なニンフ」より「残酷な運命に打ちひしがれた魂は」
Alma oppressa from La fida ninfa
「アテナイの人びと」より「2つの風にかき乱され」
Agitata da due venti from L'Adelaide
ヴァイオリン協奏曲集「四季」
The Four Seasons

ファビオ・ビオンディ [指揮&ヴァイオリン]

Fabio Biondi, Cond. & Vn

ヴィヴィカ・ジュノー [メゾソプラノ]

Vivica Genaux, Mezzo Soprano

エウローパ・ガランテ

Europa Galante

Tuesday, March 3, 2015 at 19:00 Tokyo Opera City Concert Hall

2015年3月3日(火)

19:00開演

東京オペラシティ コンサートホール

◎全席指定 S: 9,000円/A: 7,000円/B: 5,000円

主催:日本アーティスト 協力:カメラータ・トウキョウ

◎お問合せ・電話予約

日本アーティストチケットセンター **03-3339-3339**

インターネットでもお申込みいただけます

<http://www.nipponartists.jp>

[チケットびあ] 0570-02-9999 (Pコード 244-480)

[イープラス] <http://eplus>

[ローソンチケット] 0570-000-407(Lコード 33101)

[CNプレイガイド] 0570-08-9990

[東京オペラシティチケットセンター] 03-5353-9999

[カメラータ・トウキョウ] 03-5790-5560

「四季」と「スターバト・マーテル」

躍動感あふれる、色彩感豊かな演奏で大きな話題を呼んだピオンティ&エウローバ・ガランテのデビューCD「四季」、伝説となった2006年神奈川県立音楽堂におけるヴィヴァルディのオペラ「バヤゼット」公演でのヴィヴィカ・ジュノーの歌唱。待望の共演が名曲「スターバト・マーテル」で実現!!



ファビオ・ピオンティ [指揮&ヴァイオリン]

Fabio Biondi, Cond. & Vn

ファビオ・ピオンティはバロック楽器演奏のムーブメントの中で最も重要で影響力のある演奏家の1人である。

イタリアのパレルモ出身。12歳でイタリア放送局交響楽団(RAI)との共演でデビュー、国際的キャリアをスタートさせた。1989年に自身のアンサンブル、エウローバ・ガランテを設立した。ピオンティをソロイスト兼音楽監督とするエウローバ・ガランテは、とりわけイタリア・バロック音楽の演奏で一躍世界最前線のアンサンブルの1つとなった。ピオンティはバリオド楽器による演奏を窮屈な因習や音楽学的ドグマから解放したいと願い、尽きることのない今日のレパートリーを最も自発的にかつ情熱的に演奏している。エウローバ・ガランテは、4人から30人規模の、室内楽からカンタータに及ぶコンサート・プログラムを演奏している。過去2年間にレオナルド・レオの「カルヴァリオのサント・エレナ」や、アレッシンドロ・スカルラッティの「マッシモ・

ブッピーエーノ」「クロリ、ドリノ、アモーレ」等の世界初演を行った。2001年にはバルマ・ヴェルディ音楽祭の開幕のためにベッリーニ「ノルマ」をオリジナル楽器で初上演する。エウローバ・ガランテとファビオ・ピオンティのレコーディングは世界的に賞賛されている。同グループが受けた数々の権威ある賞にはACC賞、ディアパソン・ドール年間賞、RTL賞、ディスコフィル大賞等がある。グラモフォン誌は「ヴァージンの『調和の靈感』のこれらの演奏を聴いて、私は1950年代半ばに初めてこの音楽を聴いた時に受けたスリルと興奮を再び感じた。素晴らしい才能に溢れ、若々しく、非常に満足のものである」と評した。1998年にファビオ・ピオンティはエウローバ・ガランテのソロイスト兼音楽監督としてヴァージン・クラシックスと専属契約にサインした。『ヴィヴァルディ：調和の靈感』をはじめとする大成功を収めた3枚のディスクに続いて、2001年にグループのメンバーとの初の室内楽レコーディングであるボッケリーニの弦楽五重奏曲をリリースし、グラモフォン誌によって即座に「必聴ディスク」と認定された。その後も「四季」を含む12曲のヴァイオリン協奏曲集、ヴァヴァルディ「和声と創意への試み」の新録音をリリース、絶賛される。ピオンティはこれらの演奏のためにマンチェスター、ドレスデン、トリノでオリジナル自筆譜の研究を行っている。

2005年よりノルウェーのスヴァンゲル交響楽団のバロック音楽のための芸術監督、2011年よりサンタチェチーリア音楽院の学芸員を勤める。



ヴィヴィカ・ジュノー [メゾソプラノ]

Vivica Genaux, Mezzo Soprano

アラスカのフェアバンクス生まれ。

1994年にミルウォーキーのフロレンティーヌ・オペラでの「ラ・チェネレントラ」のアンジェリーナでオペラ・デビュー。この役で「セビリアの理髪師」のロジーナで名声を挙げ、欧米各地で数多く演じ、2004/2005年シーズンの終わりにはその数200回近くになる。現代を代表するアンジェリーナ歌いとして活躍の他、めったに公演されないバロックやベルカントの諸役を演じ世界各地に躍進、そのレパートリーは26役におよぶ(うち16役はズボン役)。優れた歌唱力と美声、巧みな人物描写により賞賛を得ている。

録音活動も活発で、ヤコブス指揮「リナルド」(03年)、グラミー賞にノミネートされた「ファリネッリのためのアリア」(02年)、カーティス指揮「アルミニオ」(02年)、ロッシーニとドニゼッティの「ベルカント・アリア集」など。ドレスデン音楽祭では、「1999年アーティスト・オブ・ザ・イヤー」を受賞した。



エウローバ・ガランテ

Europa Galante

イタリア語で「豪華絢爛なる(または「優雅なる」)ヨーロッパ」を意味する「エウローバ・ガランテ」は、芸術監督ファビオ・ピオンティによって創立された後、その名の通り、イタリアの太陽を思わせるような輝かしい明るさと色彩感溢れる新鮮な感動に満ちた演奏で、急速に国際的名声を獲得し、イタリア・バロック音楽の再生の象徴的存在となった。

エウローバ・ガランテ 4人から30人の器楽奏者および歌手の編成によって、室内楽からカンタータまでのプログラムを行っており、レパートリーは18世紀の有名な作品(ヴィヴァルディ、コレリ、ジェミニアーニの協奏曲など)、ヘンデル、ヴィヴァルディのオペラ、A.スカルラッティのオラトリオ、またタルティーニとカステリーヨのソナタ、ボッケリーニの三重奏と四重奏などがある。2001年のバルマ・ヴェルディ・フェスティバルでは、ベッリーニの「ノルマ」オリジナル演奏版を世界初演し高く評価された。